

三浦梅園旧宅の保存修理が完成

このほど、史跡三浦梅園旧宅の保存修理工事が完成し、4月30日(月)午前9時から、安岐町富清の現地です、しゅん工記念式典が行われました。

三浦梅園旧宅は、保存状態が悪くなっていたため、平成14年度から解体修理工事に着手。約5年かけて国の指定を受けた昭和34年当時の様子を復元しました。総事業費は約2億1千万円。

関係者や地元西武蔵小学校の児童など約80名の出席者を前に、野田侃生市長が「当地区は、郷土が生んだ偉大な先人である三浦梅園先生の遺徳を偲び、梅園の里づくりのいろいろな行事を企画・実行していることに敬意を払い、感謝を申し上げます。今後、梅園先生の遺徳を国東市内はもとより、全世界に向けて発信する気持ちで頑張ってください。」と式辞を述べました。



▲テープカットのようす

この後、吉井孝光教育長から事業工程報告があり、続いて各界の代表者によるテープカットや記念植樹をして完成を祝いました。

子どもたちの健やかな成長を祈って 弥生のムラ「端午の節句」

5月5日(土)のこどもの日に、弥生のムラ・市歴史体験学習館で、年中行事「端午の節句」が行われました。

国東地域の伝統的な民俗行事に親しんでもらおうと、1歳前後の子どもを対象に「餅ふみ・餅かるい」「物えらび」「泣き相撲」が行われ、愛らしい子どもたちの姿に会場は終始和やかな雰囲気包まれていました。

また、会場内ではこいのぼりやかぶと、火起こし、勾玉(まがたま)づくりを体験するコーナーも設けられ、大勢の家族連れなどでにぎわいました。

▶ 粘り強い子になりますように、一生食べることに困らないようにと、一升餅を踏んだり背負ったりして「餅の持つ力を分けてもらう」「餅ふみ・餅かるい」



◀ 子どもが最初に持った道具で子どもたちの未来の仕事を占い、祝う「物えらび」

子どもたちに、ひょうたん作りの楽しさを伝えたい

武蔵町糸原の外池里士さん(75)は、ひょうたんづくり愛好者でつくるNPO法人全日本愛瓢会会員で範士十段。約20年前からひょうたん作りをはじめ、これまでいろいろな展示会に出品し金賞をはじめ数多くの賞を受賞しています。また、今年2月の第49回県内一周大分合同駅伝競走大会では、3万粒のひょうたんの種で作製した高さ180センチのゴジラで応援し、応援大賞優秀賞を受賞しました。

外池さんは「学校で子ども達にひょうたんの栽培から作品の製作まで教えたい。ひょうたん作りの楽しさを伝え、ひょうたんコンテストを開催できればと思います。」と話しています。

現在、外池さんの自宅にあるギャラリーで作品を見学することもできます。入場無料です。また、地区の祭りやイベント等にひょうたんを無料で貸し出しています。事前にご連絡をお願いします。

連絡先 「ひょうたん夢工房・松里」

外池さん ☎0978680915



▲外池里士さん



▲自宅ギャラリーには、表面に色を付けたり、字や絵を書いたりした作品が数多く並べられています